

< 第 2 回親水空間ワーキンググループでの主な意見(平成 25 年 12 月 4 日開催) >

・ : 委員からご意見 : 事務局の回答

B 池の導水計画について

- ・ 貯留方法については、掘り下げ案が妥当である。
- ・ 地下水導水案は、計算値では水量がまかなえることになっているが、B 池と D 池の高低差がないと、机上の水量が B 池に流入しないのではないかと。また季節変化もあるので、有効に使えるよう検討してほしい。
計算値は、安全側の条件で算出している。
- ・ 地下水の流入箇所が多いが、大雨等有事の際も地下水が常時供給されるのであれば、治水上の影響はないのか。
境川は有事の際は、手動で供給を止めるシステムになっている。
もともと地下水の流入は遊水地計画に含まれているものなので、治水機能に影響はない。
- ・ 導水の方法として、河川の水を引き込むことも考えられるが、地下水と河川水では生態系の構成が変わる。
- ・ 水のビオトープとして、地下水のみの水量でよいかは疑問である。
- ・ 貯留方法は、掘り下げ案で進めることにするが、導水方法については取水樋管設置なども含めて検討してもらいたい。

B 池上部利用計画の検討について

- ・ ゾーニング検討において、地域懇談会の意見を考慮すると事務局案が妥当であるが、人の立ち入り空間をどう区切るかが問題である。
- ・ 今の配置案だと中の島はヒメガマ～ヨシが 2 年程度で占有し、エコトーンまで水がほとんどこない。保護ゾーンは、川沿いではなく、下流側に集約して水鳥の利用空間と考えるべきである。
- ・ 上流側はデッキ等を設置し人の立ち入る空間とし、エコトーンは下流の池沿いに配置すると、管理がしやすいのではないかと。
- ・ 下流の池までの水路は、ヨシが占有するような場所であってもよい。
- ・ 中の島は、生物の生息空間として貴重であるが、池全体を考えると規模はもう少し小さくてもよい。
- ・ B 池には越流堤がなくゴミなどがビオトープに流入することは考えられないが、C 池からの導水部は、土砂等の堆積が考えられるので管理動線を確保すべきである。
- ・ のり面の面積が大きいので、この場所も草地のビオトープとして考えるべきである。
- ・ 池の水深は、50cm 程度あればよい。
- ・ B 池の面積に対して駐車場の割合が大きいため、規模や配置について工夫できないか。
- ・ 地下水のみでは十分な水量とはいえず、C 池の取水樋管設置なども含めて検討してもらいたい。
- ・ 次回は、水際の多様性や植生・護岸の考え方について検討していきたい。

以上